



所属チーム／九州ドルフィン
出身地／熊本県 年齢／25才
持ち点／2.0

安尾 笑

YASUO Emi

22

上り始めた代表の階段

安尾 笑(2.0)

<「いつか自分も」が今、現実に>

今年1月に初めて代表合宿に呼ばれ、2018年度の強化指定選手のメンバー入りを果たした安尾笑。6月のオーストラリアとの親善試合や、7月のイギリス遠征にも出場し、その結果、アジアパラ競技大会では初めて公式戦の12人のメンバー入りを果たした。

そんな安尾が、車いすバスケットを始めるきっかけとなったのは、ある選手との偶然の出会いだった。元日本代表の平井美喜だ。安尾が高校1年生の時、当時杖をついて歩行していた安尾に、平井が突然、街中で声をかけてきたのだという。

「平井さんが『車いすバスケットというスポーツをやっているんだけど、一緒にやりませんか?』と誘ってきてくださったんです」

しかし、当時の安尾には興味がわかかなかった。せっかくの誘いだったが断り、その後2年間は車いすバスケットを見に行くこともなかった。

高校を卒業して社会人になったのを機に、安尾は何か新しいことを始めたいと思った。その時に、ふと頭に浮かんだのが平井だった。

「今までやったことのなかったスポーツをしてみようか……」

それが、すべての始まりだった。

最初は趣味で始めた車いすバスケットだったが、代表で活躍する平井を見ているうちに、いつしか「自分も」という気持ちが芽生えていった。

「平井さんという存在が近くにいたことが大きかったですね。代表活動で忙しくされている姿を見て、『カッコいいな』と思ったんです」

それが今、現実となっている。

<チームからの信頼に不可欠な「精度」>

しかし、安尾にはまだ代表としての確固たる自信はない。それでも、自らの役割を懸命に模索し、食らいつこうとしている。

「まだまだ戦力としては力不足。ただ、自分にもやれることはあると思うので、一つ一つ最善を尽くして、少しでもチームに貢献できたらと思っています」

安尾はこれまで「スピード」と「パワー」には、ある程度の自信があった。それが自分自身の強みだと思っていた。だが、今は少し違う。「代表のレベルになると、単に速いとかパワーがあるでは通用しません。すべてのプレーに精度が求められる。でも、その精度は、これまでの私には欠けていたものだったことに気付かされたんです。いい時はいいけれど、ダメな時はダメ。そんなことではチームからの信頼は得られないんだなと」

「スピード」と「パワー」に「精度」を加え、「真の強み」にする。それが、安尾にとって大きな一歩となることは間違いない。

「代表チームにとって、本当に必要とされる選手になりたい。今、強くそう思っています」